

# 山口県山口市方言の待遇表現

時見 隆一

## I. はじめに

- (1) 調査対象地：山口市は県都として県のほぼ中央に位置する。面積は約356.9 km<sup>2</sup>、人口約14万。話者の住む平井地区はかつては農村部であったが、大学の移転に伴い開発も進んでいる。話者自身も学生用アパートを経営し、学生と話す機会も多い。
- (2) 調査年月日：1996年12月11日(水) 午後1時～2時30分
- (3) 話者：重枝ヒサヨ(女) 1919(大正8)年 2月15日生(76歳)
- (4) 調査者・調査場所：重枝氏宅で、時見が面接でおこなった。
- (5) 調査方法：当該調査表に基づいた質問調査。テープレコーダーに録音。
- (6) 表記方法：方言事象は片仮名書き。アクセントは高低2段階で、高音部にのみ傍線を付す。(文末詞などで卓立強調と認められるものも一応高音と捉え、傍線を付す) また、いくつか言い方がある場合は/で示す。( )内は話者の内省及び注記。

## II. 調査結果

### i. 尊敬表現

#### i-1 対者敬語

- (1) A アンター ゲンキカネ  
B アナタワ オゲンキデスカ (BとCではほとんど差はない。以下同様)  
C 同上
- (2) A アシター イエニ オルカネ  
B アシター イエニ オッテデスカ/オイデマスカ (後者の方が丁寧)  
C 同上
- (3) A アシタ イクカネ  
B アシタ イッテデスカ/オイデマスカ ((2)のBに同じ)  
C 同上
- (4) A オンセンニ イカンカネ  
B オンセンニ オイデマセンカ  
C 同上
- (5) A ナサイマスカ  
B 同上
- (6) A ミラレマシタカ  
B グランニナリマシタカ

- (7) A ユウベワ ナンジニ ネラレマシタカ  
 B 同上  
 C ネテクダサイ (看護婦さんは標準語を使うだろう)
- (8) A ドコエ イクンカネ  
 B ドコエ オイデマスク  
 C 同上
- (9) A タベサンノ  
 B ドウゾ オアガンナサイマセ  
 C 同上
- (10) A ミシテ<sup>ネ</sup>／ミシテ<sup>チ</sup>ョーダイネ (話者はミセテ～だと言われるが聞こえ  
 B ミシテクダサイマセンカ はミシテ～に近い)  
 C 同上

i-2 第三者敬語

- (11) A アシター イエニ オッテジャローヨ  
 B 同上  
 C 同上
- (12) A オッチャナカッタヨ／オッチャーナカッタヨ  
 B 同上  
 C 同上
- (13) A ソウ ユッテオイデマシタヨ  
 B 同上
- (14) A イマ ソコニ イッチョッチャッタヨ  
 B 同上  
 C 同上
- (15) A キチョッテヨ  
 B オイデテオリマスヨ  
 C 同上
- (16) A シゴトオ シチョッテヨ  
 B 同上
- (17) A ミシテモロータヨ  
 B 同上  
 C 同上
- (18) A ミシテクレタヨ  
 B 同上  
 C 同上

(19) A ワタシニ クダサイマシタ

B 同上

(20) A モローク

B 同上

ii. 謙讓表現

ii-1 謙讓表現

(21) A ワタシモ

B 同上

C 同上

(22) A ハー モー タクサンデス/ケッコウデス

B 同上

(23) A オモチシマシヨウ

B 同上

(24) A マタシタネー

B オマタセシマシタ

C 同上

(25) A エキデ マッチョルヨ/マツトルヨ (両方使うかも)

B エキデ オマチシテオリマス

C 同上

(26) A ユーチョッテ ネ/ユーチョッテ チヨ ダイネ

B オッシュアット ツテクダサイマセンカ

C 同上

(27) A コレヲ アゲ ヨーイネ

B コレヲ アゲ マシヨ ーイネ

C 同上

ii-2 身内敬語

(28) A コーテヤツタ

B コーテヤリマシタ

C 同上

(29) A シュジンハ モー カエツテマス

B 同上

iii. 丁寧表現

(30) A ユクヨ

B ユキマス

(31) A サムイネー (男だったらサムイノーと言う)

B キョーワ サムーゴザイマスネー

C 同上

(32) A オルヨ

B オリマス

(33) A ヨカッタネー

B ヨーゴザイマシタネー

C 同上

(34) A ソーカネ

B ソーデスカ

C ソーデゴザイマスカ

iv. 人間関係に応じた待遇表現

iv-1 特定表現の待遇表現

(35) ソノ カドオ ミギエ マガッテ〜 (特別な言い方はない)

(36) トンデモナエ (特別な言い方はない)

iv-2 多人数場面の待遇表現

(37) フツツカモンデショークド ヨロシク オネガイシマス

(38) コンドノ リョコーハ サンカシャガ スクナエーノデ ミナサン オイデテ  
クダサイマセ

iv-3 位相による待遇表現

(39)

1. オハヨーゴザイマス ドチラエ オイデデゴザイマスカ

2. " ドチラエ オイデニナリマスカ

3. オハヨーゴザイマス (あとは言わないだろう)

4. 同上

5. オハヨーゴザイマス ドチラエ オイデマスカ

6. 同上

7. オハヨーゴザイマス (あとは言わないだろう)

8. 同上

9. オハヨーゴザイマス キョーワ ドッチ イクノ

10. オハヨー キョーワ ドッチカネ

11. " ドッチ イクノ

12. 同上

13. 同上

14. 同上

### Ⅲ. 総括(まとめ)

当該調査表の項目に沿って気づきなどまとめておきたいと思う。

#### i. 尊敬表現

対者敬語に関しては、だいたいにおいて

##### ① 尊敬動詞の使用

##### ② 「～て」の使用

が挙げられよう。①で代表的なものは「居る、行く、来る」の尊敬語である「オイデル、オイデマス」である。このうち「オイデマス」の「マス」は現在の丁寧語「マス」とは異なり、「坐(ま)す」という尊敬の補助動詞出自のもので、従って「オイデマス」は最高敬語の部類に属する。このほか、「食べる」の尊敬語「アガル、オアガリニナル」などがある。②は(2)Bに挙げたように「オッテデスカ」などのように用い、尊敬の意はあるがやや弱く、特に女性は丁寧な物言いのときにも用いるようである。尊敬の度合いは

オルカ<オッテデスカ<オイデマスカ (居るか)

となる。また、この「～て」は過去形になると「オッテヤッタ→オッチャッタ」のごとく「～チャッタ」の形で使用されることも多い。

そのほか、B. 近所の年長(女性)とC. 土地の目上の人(男性)ではほとんど違いはない、とのことであった。

#### i-2 第三者敬語

この項目が最も特徴的である。結果から言うと、第三者敬語は存在せず、専ら対者敬語によって成り立っているようである。(11)を例にとると、ABC誰のことを話すにしても友人に話す場合は「オッテジャローヨ」が使われるのに対し、逆に目上に話す場合には「オイデマショーヨ」になる。

ii. 謙讓表現からiv. 人間関係に応じた待遇表現までは特に目立った傾向は見られないようである。強いて挙げるならば、特に自身を卑下する表現はないこと、身内に敬語は用いないこと、くだけた物言いのときは「アナタ」が「アンタ」、「ドチラ」が「ドッチ」になること、などであろうか。

最後にアクセントの面からの気づきを挙げる。

オイデテオリマス など、好例である。従来言われていることであるが、共通語では～アリマスのようにマまでが高い中高型であるのに対し、当方言では～アリマスのようにリから下がる頭高型になる。オリマスも同様。

また、「オイデマス」は一語化意識があるきらいがある。オイデテ～、オイデニ(ナル)などは2拍めから上がるのに対し、オイデマスは3拍めから上がる。これは音韻的と言うよりはむしろ音声的なもので、話し手が一語を意識したための卓立強調の一種と考えるべきであろう。

(ときみ りゅういち 山口大学大学院)